

区分・種別	県指定史跡		
名 称	いまばりじょうあと 今治城跡		
所 在 地	今治市通町3丁目		
所 有 者	今治市ほか	管 理 団 体	今治市
指定年月日	昭和28年10月9日		
解 説	今治城は、^{そうじゃがわ}蒼社川の三角州左岸、標高13mの地に築造された平城で、別名を^{ふきあげじょう}吹揚城とよび、藤堂高虎によって築城された。築城奉行を渡辺勘兵衛、普請奉行を^{きやまろくのじょう}木山六之丞とし、慶長7（1602）年から同13（1608）年までの歳月を要した。かつての^{じょういき}城域は一辺約600mの方形で、中央部に本丸・二の丸・三の丸を構え、櫓数は23、周囲に幅約50mの内堀、さらに中堀、外堀をめぐらせ海水を引き入れていた。^{いしがき}石垣は自然石をそのまま積み、いわゆる^{のづら}野面積みの手法で^{こうばい}勾配は直線的である。石垣下部の水際には幅4～5mの犬走りが設けられている。現存するのは内堀と本丸・二の丸・三の丸の石垣のみである。藤堂氏が転封後松山藩主松平定行の弟の定房が入府、以後明治維新まで10代続いた。 なお、現在の天守は昭和55（1980）年に市制60周年を記念して建造されたものである。また、平成19（2007）年に写真や発掘調査成果に基いて^{くろがねごもん}鉄御門が復元されている。		

